

「聴覚に関する世界報告書」の発表イベント概要

資料1

令和3年3月22日参議院厚生労働委員会 自由民主党・国民の声 自見はなこ
出典:難聴対策推進議員連盟事務局作成資料を基に自見事務所で朱入れ

- 2021年3月3日に、WHOは「聴覚に関する世界報告書」の発表イベントを開催。
- テドロス事務局長は、難聴について、高齢者のみならずあらゆる年齢層の人々に起こることと、予防可能かつ治療可能であることを強調。現在、世界では15億人以上が難聴を経験しているが、2050年には25億人に達し、うち1/3がリハビリテーションサービスを必要とする可能性があることから、難聴に関するケアの優先度を上げる必要性に言及。**本報告書には、2030年までに聴覚ケアサービスの普及率を20%向上させるという目標を達成するためにとるべき行動が示されていると述べた。**

報告書の紹介

- 生涯を通じて聴力を維持するためには、難聴の予防・早期発見・適切でタイムリーな治療とリハビリテーションが重要。聴覚のケアについては、各国の保健医療計画に統合させ、保健システムを通じて提供されることが必要。
- 難聴は聴覚やコミュニケーションへ影響を与えるだけでなく、言語、認知機能、精神状態、人間関係、教育、雇用、**社会的孤立等**にも幅広く影響を与える。
- 今後10年間にわたり、新生児、小児、成人に関する3つの指標をモニタリングする。

参加者によるプレゼンテーション

- 先天性難聴の患者:先天性の難聴は、生涯にわたってコミュニケーションのトレーニングを要する。個々のニーズの把握と多面的なケアへのアクセス改善がカギになる。
- 後天性難聴の患者:後天性の難聴は、診断から治療までに平均6~7年かかるといわれている。**難聴は孤独に、孤独はうつ病に、うつ病は認知症につながる**。重度の難聴者にとって、補聴器と人工内耳でも十分でないことを理解する必要がある。政府は、予防教育や技術開発に投資してほしい。
- インド保健大臣:インドでは、小児は中耳炎、若者や成人は騒音や薬剤が原因の難聴が多く、老化による難聴も増加。農村部における難聴の有病率が高いことも判明した。政府は難聴の予防と早期発見に焦点を当てたプログラムを実施するとともに、手術や補聴器、リハビリテーション等の適切な介入やサービス提供にも力を入れている。今後は、コミュニティやプライマリーヘルスケアにおけるサービス向上のために、医療従事者の教育に取り組む。